

自己評価報告書

平成23年 5月12日現在

機関番号：37116

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20390549

研究課題名(和文) 在日外国人に対する看護の現状と諸外国における状況との比較

研究課題名(英文) Current Status of Nursing to Foreign Resident in Japan and Comparison with Situation of Foreign Countries

研究代表者

川口 貞親(KAWAGUCHI YOSHICHIKA)

産業医科大学・産業保健学部・教授

研究者番号：00295776

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護、在日外国人、全国調査

1. 研究計画の概要

本研究では全国の医療機関、保健所(市町村保健センターを含む)を対象として、まず在日外国人に対する看護の現状を把握する。全国の医療機関、保健所から無作為抽出により対象を選定し、まずは質問紙を用いて、全国一斉に調査を実施する。さらに、質問紙調査の回答内容によって、面接調査の協力が得られる場合には、半構造化の面接を行うことにより、在日外国人に対する看護の現状と詳細な問題点について把握する。そして、諸外国における状況の視察調査を通して、わが国が抱える在日外国人に対する看護の問題点や具体的な対応策について考察し、諸関係機関にむけて、積極的な提言を行っていくものである。

2. 研究の進捗状況

医療機関を対象とする全国調査は「外国人入院患者への看護」「外国人救急外来受診患者への看護」の2種類の質問紙を準備し、平成21年度に実施した。それぞれ558病院、98病院から回答が寄せられ、回収率は18.6%、25.7%であった。82.2%の病院が「外国人患者への看護を行って困ることがある」と回答した。内容としては、特に言語の違いによって、患者の理解度の把握や不安の軽減など精神的支援の困難が多く挙げられた。看護援助場面における困難としては、食生活の支援が挙げられ、宗教上の食事制限、病院食の理解、産後の食文化の違いなど、宗教や文化背景から、関わりが困難であるとの回答であった。平成23年3月に開催予定の多文化間精神医学会において4演題の発表を予定していたが、東日本大震災により学会そのものが中止となった

ため、まだ発表できていない。保健所(保健センターを含む)を対象とした調査については「市町村における保健師の在日外国人に対する保健活動の現状調査」と題して平成22年10月に実施した。「平成21年版在留外国人統計」(入管協会)に記載されている全国の市町村1008施設、3507部を配付し1409部を回収できた。回収率は40.2%であった。データ入力作業、コーディングを済ませ、これから主要な分析にとりかかるところである。この結果についても、平成23年度に開催される術学会で発表したいと考えている。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している

(理由)

当初は初年度の平成20年度に倫理申請を行う予定であったが、研究方法論がなかなか確定できなかったことにより、申請書類の準備に手間取り、平成21年度に倫理申請を行うこととなった。その後の調査については、平成21年度に医療機関を対象とする全国調査、平成22年度には保健所を対象とする全国調査を実施できた。分析は順調に進んでいるが、東日本大震災によって術学会が中止もしくは延期されるものもあり、予定通りには発表できていない。

4. 今後の研究の推進方策

医療機関を対象とする全国調査、および保健所を対象とする全国調査によって得られた成果を術学会において発表し、研究論文としてまとめるとともに、調査結果の骨子について報告書を作成し、特に調査協力の得られ

た医療機関や保健所、関連機関にデータ還元する予定である。諸外国の状況調査については、文献による調査を進めながら、必要に応じて、視察および関係者への聞き取り調査を行っていきたい。

5. 代表的な研究成果
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
なし